

平成30年度 第1回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：平成30年12月13日（木） 午前10時00分～11時15分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 3人出席

委員長 萩原 司

副委員長 小島 道裕

委員 柳谷 昌代

委員 鈴木 一彦

（教育委員会）

生涯学習部：潮見部長

同部文化財課 稲葉課長 児玉補佐 西田主査

（事務局）朝生館長、芦田副館長、高橋主査、学芸担当

4 議 題

（1）千葉市立郷土博物館のあり方について（案）

（2）その他

5 議事概要及び議事結果

3 議 題

（1）千葉市立郷土博物館のあり方について（案） 【資料1】

事務局から委員に対して、資料1「千葉市立郷土博物館のあり方（案）」の内容を説明した。当該資料については、委員から出された意見等に基づき、事務局が内容を修正した後、次回会議で、郷土博物館のあるべき姿等をまとめた答申について協議することとなった。

（2）その他

次回の開催日程について、平成31年3月13日（水）に協議会を開催することとした。

6 会議経過

芦田副館長の司会進行により、潮見部長の挨拶と関係職員の紹介を行った。

その後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、萩原委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）千葉市立郷土博物館のあり方（中間報告）について

< 説 明 >

朝生館長から資料1「千葉市立郷土博物館のあり方について（案）」の内容を説明した。

< 質疑応答等 >

萩原委員長 事務局の説明について意見、質問等があればお願いしたい。

鈴木委員 パブリシティ担当を設置したいとのことだが、それは大変重要なことと思うので賛同できる。資料だが「1 現状と課題」の「1 博物館機能の脆弱性」②は、例えばスペースの関係は①に、学芸員とパブリシティ担当の専門化は③に関することから、結局は①と③の2項目になってしまうのではないかと思う。それから、②のプロセスだが調査・研究の後に広報が来るのはあまり目にしない。展示や教育普及活動をして、それを広報して市民にアピールし、その結果が評価されるのであるから、その順番としてほしい。

小島委員 資料「1 現状と課題」で言うと、観光プロモーションが市の方針であり、そこに触れずに新施設を要求することが難しいのも理解できるが、観光プロモーションとパブリシティが前面に出過ぎているように感じる。博物館の本来業務を最初にしっかりと書き込むことが一番大事である。また、現状と課題の②で博物館機能以外の組織体制について言及することに違和感がある。あるべき博物館としての機能をまず充足させることが前提であり、それ以外の話をここでするのは本末転倒のような気がする。書き方を少し改めた方がよいと思う。調査・研究、展示・教育普及は博物館の大きな柱だが、広報が調査・研究の後に来るのは違和感がある。また、調査・研究の前には資料の収集保存管理が必ず入るものだが、現状と課題②に記載されていないのは大きな問題である。学芸員については、保存関係の専門家であることに加えて、教育普及関係の専門職であることも確立しつつあるので、その点も積極的に書き込んでほしい。

また、「3 今後のあり方」だが、資料の収集保存をポンチ絵だけでなく、文書にも記載してほしい。博物館が地域における歴史資料の収集管理の拠点であるということを示すことも是非うたってもらいたい。現在、歴史資料が世代交代や家屋の建替等でどんどん捨てられている。また、異常災害が頻発する中、災害時の文化財の保全が問題となっている。資料の収集保存管理と災害対応の点で、博物館が地域の文化財を守る拠点になるということを示すことも是非記載していただきたい。

なお、国立歴史民俗博物館は災害時の拠点としても位置づけられ、非常食等の様々な物資を備蓄している。文化財を越えた範囲においても博物館は価値を持つという事をもう少しアピールしてほしい。

鈴木委員 超少子高齢化により旧家に残っている資料の消失が非常に憂慮される中で資料の収集保存という問題に対応することは非常に時宜に合うことである。ただ、郷土資料は多くが生活資料にも広がってしまうことから、巨大な収蔵庫が必要となる。そのため、施設面については収蔵庫中心に考えてよいと思う。資料収集保存に対応するには既存施設では厳しいため、新たな施設が必要という論法も可能である。

柳谷委員 基本的な事であるが、本日協議しているのは博物館のあり方を根本から見

直そうという事でよろしいか。

朝生館長

ご指摘のとおりである。

柳谷委員

今後の博物館のあり方として、別の場所に博物館機能を持つ建物を作ろうとしているということによいか。その際、予算がかかるという事で予算獲得の方策を考えているという事でよろしいか。今後の方向性として、市全体の方針が博物館整備に予算をしっかりと付けようということになっているのか。その辺りを教えてほしい。

潮見部長

長らく千葉市は財政難だったが、ここ最近になって持ち直してきた。昨年、加曽利貝塚が特別史跡になったので、まずはそちらを優先して、縄文の森構想に沿って10年近くかけて整備することとなっている。加曽利貝塚整備後、郷土博物館の施設整備に着手する時、その基礎となる考え方を準備するのが本協議会に期待される役割である。ただ、構想の策定後にすぐ予算が付くという方向性が確定していないため、策定後すぐに博物館を建てるということでないことをご了解いただきたい。また、長期的には、先程の収蔵庫や展示室等施設面での課題も多いため、他に館を作るか、または既存の立物を増強するのかのいずれかになるだろうが、その間、既存の施設で何ができるかについてもお考えいただきたい。

柳谷委員

学校関係者の観点から言うと、子どもの頃から郷土の歴史に興味を持ってもらうことが千葉市の歴史に関する宣伝効果が一番高いと考えるが、中央区外の区それも遠隔地の学校ではなかなか来館するのが難しい。参考として、学校の博物館の利用状況について現状を教えてほしい。

芦田副館長

今年度で30校程度である。最多は6年生だが、最近は郷土教育が行われる4年生も多くなった。市内の学校数から見ればそれほど多くはないが、近年は増加傾向にあり、積極的に利用してもらっていると考えている。

柳谷委員

出張授業として、資料を学校に持参して子ども達に見せることもあるか。

朝生館長

今回の資料にも学校教育との緊密な連携について記載した。教育普及活動は博物館の活動において重要な分野と考えているが、この分野の専門職たるエデュケーターが配置されていないため、動物公園や科学館が実施しているレベルの出前授業に着手可能な布陣を当館では整えられない。新しい施設がどうなるかに関わらず、10年～15年の間で、ソフト事業のさらなる拡充等、できることはやっていかなければならない中、学校へのアウトリーチ的な活動は当然拡充しなければならない。次代を担う子ども達に郷土の歴史を知ってもらうことが、20年30年後に親になった時に効果

を發揮するため、この分野は今後さらに注力すべきものと考えている。

柳谷委員 資料の収集保存管理、そして、資料にうたう持続可能という点も含めて、積極的なアウトリーチを通じて、千葉市の歴史について子ども達がしっかり学ぶ機会を増やし、子ども達が将来大人になっても興味を持って博物館に来るようにすることを念頭に置いて博物館の整備を進めてほしいということを、希望として述べさせていただく。

萩原委員長 将来的に博物館をどうするかという事と現状の施設をどう活用するかという事で非常に難しい面がある。この両方を考えながら検討していきたい。

鈴木委員 教育普及という言葉だが、最近は学習支援と言われるように学習という言葉が関係者の間で使われるようになってきている。上から教えるのではなく、博物館に自分で見つけて調べるという考え方である。現在の博物館の施設、体制の中で何ができるかも考えていく時、やはりソフト面での充実が肝要だ。出張授業ができる体制が必要となるが、そのためにはエドューケーターの配置が必要となる。そういう形で子ども達に接していれば、親の理解も広がり、20年30年先に博物館の活動を支援する働きが広がっていく。それがないと、博物館の新築について市民の合意を得ることが困難になる可能性がある。そういった戦略的な考え方が必要となる。既存施設には色々限られた設備しかないの、他に博物館を建てる方が実は重要かもしれない。自分も千葉市で生まれ生活してきたが、千葉市は本当に存在感が無いと昔から指摘されている。存在感が無いとされる状態を脱して、市民の合意の下で、博物館の拡充に関する予算が付いていくことが重要である。

小島委員 新施設への着手はもう少し先になるという事情は分かった。ただ、その間手を拱いている訳にはいかない。ソフト事業の展開とそれを担う人材確保を優先的な直近の課題に位置付けることが大事である。社会教育の専門家であるエドューケーターの重要性が指摘されているように、教育普及の分野で専門的知識を持った人材の必要性、いわばソフト事業の核としての重要性を認識してほしい。また、郷土博物館は、近世・近代の展示が非常に手薄で、特に近世の展示が全くないのは歴史系博物館としては異常である。現代社会の基礎は近世、江戸時代にできている。そこを飛ばして現代の社会のあり方、千葉市の歴史的アイデンティティを考えようとしても困難である。千葉氏は知名度も高いが、現在の千葉市の基礎となったのは近世の港町である。海辺の開発の歴史という事で千葉市の発展を捉え直すと、イメージのない千葉という印象が覆るかもしれない。港というものを中心に考えると近世が非常に大事で、それに続く近代も同様である。世代交代や災害等により貴重な資料がどんどん失われているが、資料は郷土の資源であり、それが失われてしまうと郷土の歴史を知ることができなくなる。資

料を積極的に収集保存し調査研究できる人材が欠かせない。人材確保を優先し、ソフト事業を展開させていくことが重要である。その結果、これほど多くの良質な資料があるにもかかわらず収蔵施設が不十分であると言う理由で施設整備の必要性を訴えることもできる。施設ありきではなく、はじめにすべき活動があり、その活動を進めていく上で新たな施設が必要だという形で基本構想を展開した方がおそらく説得力が増す。本日は少し施設の話が先行しているので、ソフト事業や人材の話の話を第一段階にすべき課題として置いた方がいい。

鈴木委員

3今後のあり方では、都市アイデンティティを千葉市として非常に重視しているとのことだが、千葉市で生まれ育った者であっても、確かな都市アイデンティティというものが思い当たらない。アイデンティティは資料の収集・研究から生まれると思うので、その部分をしっかりやってもらいたい。実感として、既存のものから千葉らしさを見出すのは困難と感じる。千葉らしさは、今後、近世の歴史を研究することを中心として、郷土博物館を中心として作っていくしかないと考えている

萩原委員長

地域史を勉強していると千葉らしさを強く感じることができる。千葉は本町通と吾妻町通りを中心に市街地が形成されてきた。この2本の通りを中心として広がっていった町である。昭和28年発行の『千葉市誌』の記載に基づく展示をしたら、すごい展示となると思う。そういった既存の資料を展示に利活用していけたらよいと考える。

柳谷委員

やはり裾野を広げていくのであれば、子ども達が興味を持ってそうな内容をピックアップし、それらを効果的に伝えるようなユニットを作って、どんどん出張授業に出ていくというのが、歴史への理解を広げる一つの手法ではないかと思う。具体的には、昔の衣装の着用体験とか千葉氏のマンガを通じてもっと小中学生が楽しく歴史を学べる、興味を持てる企画を実施することである。鈴木委員も述べたようにそれによって本市の歴史への興味関心が膨らんできて、博物館にもっと予算を付けるべきという流れができてくるのがよいのかと思う。

確認したいが、博物館の職員は千葉市の歴史等を詳しく知っていると思うので、個々のピックアップすべき面白い所があれば教えてほしい。また、近世近代の展示が少ないという小島委員の指摘について、同時代の資料が揃わないのか、あるいは千葉氏以外に特化できるような資料がないのか、その辺りについても教えてほしい。

朝生館長

ここ数年は中世の政治史に係る特別展が続いたが、もう少し新しい時代、それも祖父母に聞けば分かるような身近な内容をテーマとする等、歴史以外に興味を持つ方々にも来館いただける展示とは何かを、館の課題として

常に検討していかなければならないと考えている。江戸時代における千葉の特筆すべき点を明らかにすることは難しいかもしれないが、少なくとも明治以降については確実に写真が残り、また時代的にも身近さを感じることができるので、その時代の展示ももっと実施しなければならないと考える。先週も個人宅から多くの資料が出たが、早急に資料収集に着手しないと、小島委員の述べるように紛失してしまう。そのためにも十分な資料収容能力を持った収蔵庫が必要だ。教育普及事業については、次代を担う子ども達が郷土史に興味を持てるような伝える力を館が持たないといけない。博物館に来れば一人で何か学び、疑問を持ち解決できる場であるということを、博物館の本来の特性に位置付けて実現していかなければならないと考える。

潮見部長 千葉市の4つの地域資源の中で歴史的なものが千葉氏だったこともあり、郷土博物館が千葉氏メインになっている印象がある。千葉氏以外の歴史については確かに特徴がないと思われるかもしれないが、例えば鉄道のように、調べていく中で焦点をあてるべきものが見つかるかもしれない。そういうことをやっていくことは重要であり、アイデンティティの確立とも競合するものではないと思う。今後の方向として、まずはやはり、ハードよりソフトをしっかりとやっていくということが大事と考える

萩原委員長 郷土博物館は『千葉いまむかし』という刊行物を発行しているが、実に丁寧に必要な資料を使って様々な千葉の歴史について記載している。これをもっとPRしてほしい。

鈴木委員 そういうものが後方支援として使えるし、今おっしゃった鉄道関係の歴史展示は非常に多くのファンがいる。しっかりと資料を集めてアピールすれば全国からファンが来館する。

小島委員 以前展示を拝見した時、千葉は医療が進んでいて東京方面から療養に来る人のための施設が多くあり、それが千葉大医学部に伝統として繋がるという事を知ることができた。探していけばそういうトピックはたくさんあるはずだ。千葉市独自というものを探し出すのは難しいかもしれないが、千葉市は、江戸時代から江戸・東京の近郊都市という事で食料燃料を提供する拠点であった。江戸時代の資料は中世に比べれば圧倒的に残っているので、今まで積極的にアピールしてこなかったものを取り上げるのが良いと思う。やはり資料の収集調査とそれによるトピックの掘り起こしが十分でないことが非常に大きな課題であり、そこを重点的に着手してほしい。これから基本構想を作ることは非常に良いことだが、外部から言われてこうするのではなくて、館の内部からこういう歴史があるのでこういう博物館、こういう展示にしたいという声が出てこなければならない。それがあって

こそその基本構想である。そういう点で、専門的人材が基本構想を作る時点で十分に確保されていないと厳しい。近世近代の専門家は是非早々に確保して、それから基本構想の構築に進むという体制が望ましい。

鈴木委員 病院の話が出たが、千葉大病院に関する資料はもっと見つかるかもしれない。千葉の病院は公的機関からではなく、民間の診療所から発展してきたが、これは千葉市独自の物語性という面からすると重要な要素であるといえる。

柳谷委員 私が勤務する学校は埋立地にあるため歴史的なものが存在しない。また、私も含め児童も保護者も市外から来た者が多い。そういう状況で千葉市に興味を持ってもらうのは難しいが、小さな子どもや千葉のことを知らない人にも本市の特色や成り立ちをアピールできる展示があればもっと郷土史に関する興味関心が広がっていく。現行の展示内容は千葉をずっと研究してきた人であれば理解してもらえるが、千葉のことを知らない人たちには分かりにくいと思う。博物館が分かりやすさを追求して、市民にアピールすることで、千葉市のファンができる。そういう方向にされるのが良いかと思う。

萩原委員長 長時間の協議ありがとうございました。只今、様々な多岐に渡る意見をいただいた。基本的には、事務局から説明された案・方向性に、あるべきゴールを見据えたうえで、そこに至るまでの過程をどうしていくかについての意見をいただいたと思う。
次回の会議で、あるべき姿とゴールを明確化し、それに対してどのような対応をできるかという事をまとめて答申したい。この答申をもとに次年度から基本構想の作成に着手するという事で進んでいきたい。事務局は今回出した意見をまとめて次回の開催までに十分検討して資料に反映してほしい。

(2) その他

萩原委員長 他に質問等無いか。それでは意見等が無いのでここまでとする。その他について事務局から伝達事項あるか。

事務局 次回の博物館協議会の日程だが、3月中旬を考えている。

事務局 (各委員の日程調整の結果) 次回の会議は3月13日の午後に開催する。今回の協議に基づき資料を修正するので、委員には資料の内容確認をお願いしたい。

萩原委員長 本日は、長時間にわたりまして熱心なご協議をありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度第1回千葉市立博物館協議会を閉会させていただきます。

本日は、お忙しい中ありがとうございました。

萩原委員長の挨拶により、平成30年度第1回千葉市立博物館協議会を終了した。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231